

2025 SUN

11/30

大人が知ることで
全ては変わる。繋がる。

子どもまんなか フォーラム

人づくりは国づくり。
国づくりは食づくりから。

2025 in 神迎え出雲

大社文化プレイスうらら館 だんだんホール
〒699-0711 島根県出雲市大社町杵築南1338-9

開演 11:00 ▶ 終演 16:30 (会場受付開始 10:00~)

どなたでも /

参加
無料

専門家たちや実践者によるパネルディスカッション

子どもの心の育ちと 食(腸内環境)の関係

11:30 ▶ 12:30

食物アレルギー専門医 大矢 幸弘
子どもへの食育実践者 前島 由美
医食同源米 普及活動家 江原 崇光
大阪府泉大津市市長 南出 賢一

栄養、情緒、行動、発達、脳内アレルギー
脳腸相関など、科学的知見や現場の実践から
「食」の重要性を深く掘り下げていきます。

子どもの心を 健やかに育てる環境とは

13:30 ▶ 14:30

教育・環境・社会活動家 軌保 博光
生きる力を育む教育家 佐々木 豊志
子どもへの食育実践者 前島 由美

発達障がいの子や不登校の現状
子どもへの関わり、教育などを通して
これからの課題や政策連携を考えます。

子どもと地球の未来に繋がる 持続可能な農業と環境教育

14:30 ▶ 15:15

有機農業指導者 小祝 政明
有機農業実践者 佐藤 拓郎
リサイクル実業家 岩元 美智彦
元環境省事務次官 中井 徳太郎

子どもの健やかな心身の育ちを支える
主食の米作りと地球環境保全に繋がる
子どもたちへの環境教育を考えます。



子どもまんなかフォーラム発起人 前島 由美
三つの柱で構成したパネルディスカッションから
子どもたちと地球の明るい未来が見えてきます！

「食・農業・環境・教育」各分野の専門家たちが集結！
登壇者の詳細は右記QRコードにてご確認ください



※録画メッセージ



出雲市の子どもたちとコラボ演奏も！

15:30 ▶ 16:00 出演：出雲西高等学校吹奏楽部、出雲市内の小中学生



田尻 大喜
人を笑顔にする
ドラジベッター



Yae
半農半歌手
癒しの歌声

主催

子どもの未来と地球環境を守るための
社会課題を解決する議員の会

イベントに関するお問合せ

090-9606-2307

giantkc1221@gmail.com (山下)

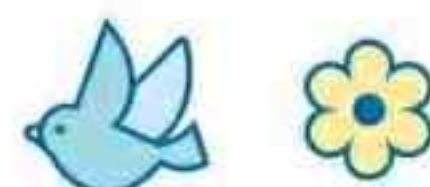
後援

農林水産省※ / こども家庭庁※ / 環境省※ / 島根県※ / 島根県教育委員会※

出雲市※ / 島根県農業協同組合 (JAしまね)※ / 公益社団法人ヤマト福祉財団※ / 島根県商工会連合会 / 特定
非営利活動法人島根有機農業協会 / 社会福祉法人出雲市社会福祉協議会 / 医食同源米によって我が国
の国難を解決するためのコンソーシアム / シャボン玉石けん株式会社 / 株式会社EM研究機構 / 一般
社団法人農福連携自然栽培パーティ全国協議会 / 株式会社どう出版 / 食育心理研究所 / 一般社団法人
テラパルズ協会 / 一般社団法人香春みらい塾 / 株式会社Ascience / NPO法人子どもは未来 ※予定



本フォーラム開催に向けて



現代社会が抱える多くの課題は、人と人、組織と組織の「分断と分離」から生まれており、その影響は次代を担う子どもたちの心身の健康にも影を落としています。しかし、今こそその流れを「調和と統合」へと大きく転換させる時だと感じています。私たちが次世代へ繋ぐ「国づくり」を本質的に考えるとき、その起点は「人づくり」、さらには「食づくり」にあります。世の中では「地域循環共生圏」の重要性が叫ばれていますが、その本質的な循環を支えるのは「菌」であるという、太古から変わらないシンプルな原理原則を見つめ直す必要があるのではないのでしょうか。この原理原則を未来を担う子どもたちへと応用するなら、それは「子どもの腸内環境」という体内の小さな「地域」に着目することに他なりません。子どもたちの腸内環境を一つの大切な地域として捉え、良好な「体内循環共生圏」を築くことこそが、今の私たちにできる最もシンプルで根源的な活動ではないかと確信しています。なぜなら、この「食」と「腸内環境」を見直す取り組みは【①安全な食を生み出す農林業の振興を促し、②水源や土壌を育む山や森を守ることになり、③川、里、海といった国土全体の豊かさを守り、④ひいては、豊かな風土と共にある日本の文化を守ることへと繋がるから】です。「子どもの腸内環境を守り育むことは国づくりそのものである」この本質的な視点のもと、本フォーラムは、子どもたちの未来を最優先の価値として捉え、「食・農・環境・教育」といった分野や、組織の垣根を越え、互いの実態を明らかにして共有することから始まります。この壁を無くす対話こそが、今まで国になかった新たな施策を私たち民間から生み出し、子どもたちが心身ともに健やかに育つ社会を築く原動力となります。さらに、本質的な社会変革のためには、参加者一人ひとりの「意識改革(目覚め)」が必要です。ジャッジや批判ではなく、「ただ知ること」の大切さに気づき、心で繋がる安心感から真の豊かさを見出すこと。この意識の変化こそが、健全な循環を引き継ぐ持続可能な社会を生み出します。より良い社会創造へ向かい、皆で知恵を出し合い、共に行動に移していくための新たな組織(審議会や協議会)づくりへの提案を、八百万の神々が集った出雲の地から発信したいと思います。この趣旨に共振共鳴してくださる多くの方々とともに、未来を切り拓く一日となることを心より願っております。子どもと地球を守るための社会課題を解決する議員の会 アドバイザー 前島由美



意識の統合

批判やジャッジを手放し「ただ知ること」の大切さに目覚めます。子どもたちの健やかな成長を共通の願いとし心で繋がり合う安心感から真の豊かさを見出します。



分野の統合

子どもたちの未来を守り育む持続可能な社会創造へ向け、参加者全員が知恵を出し合い、より良い社会へ行動を移すための新たな組織(審議会など)の立ち上げを目指します。



行動の統合

「食・農・環・教」の分野や組織の壁を取り払います。実態を明らかにして共有し、子どもたちが安心して暮らせる社会へ向けた国の施策を、民間から生み出す土壌を耕します。

＼ こんな方、ぜひお越しください ／

- ✿ 有機農業者、又はこれから有機農業を目指したい方
- ✿ 「子どもたちに有機な給食を」と望まれる方
- ✿ 子どもが輝く、学校やフリースクールを増やしたい方
- ✿ 持続可能な地球のために活動したい方



イベントを応援してくださる方々からのメッセージ



汐見 稔幸

教育・保育評論家
保育会のスペシャリスト

食環境の変化で不足してきているミネラルをきちんと食で補い、愛を持って関われば子どもの発達障がいはいかにも改善する。新たな食育によって「発達障がい」という言葉が社会から消える時代が来る！そんな予感がします。



安達 貴弘

東京科学大学
未病制御学 准教授

長年の研究で、食べた物で腸内環境(免疫)が変われば「行動」が変わることが分かりました。今後は「脳腸相関(のうちょうそうかん)」の観点からも子どもたちの給食の重要性が見直されていくと思います。



国光 美佳

食育心理[®]研究所
代表

現代食のミネラル不足は、実測調査により明らかになり、その影響は子どもたちの脳や心の発育にまで及みます。有機な農作物や、小魚や海藻などで胎児期からバランスの取れた豊富なミネラルが摂取出来れば、日本の未来は大きく変わりますね。